

1 研究主題

「できた!」「分かった!」と感ずることができるともとの育成
～ICT機器を活用した効果的な学習指導の追究を通して～

2 研究のねらいとこれまでの取り組み

これまで、名古屋市教育委員会が重視している『なかまなビジョン』を基に、話し合い活動（対話）を大切にした（主体的な）学び、学習のめあてをもち、学んだことを振り返る（主体的な）学び、学んだことを振り返った上で自分の考えをまとめる（深い）学びができる授業づくりに取り組んできた。これにより、児童は自身の学びや変容を自覚したり、自分の考えを広げたり深めたりしていく力を伸ばすことができるようになってきた。

一方で、学校評価における児童アンケート『勉強したことを、自分の言葉で文にまとめたり、発表したりすることができますか』に対して、『はい』と答えられた児童の割合は約3割であった。このことから、自分のまとめた考えに自信をもてない児童がまだ多くいることが分かった。

そこで、「めあてをもち」「対話する」「振り返る」「まとめる」各場面で意見や考えの共有・意見交換をさらに盛んにすることで、児童が自らの学びをより実感し、自分の考えに自信をもつことができるようにしたい。そのために、今年度よりICT機器の効果的な活用方法を追究していきたいと考える。この実践を通し、「できた!」「分かった!」と感ずることができるともとの育成を目指していきたいと考える。

3 研究の方法

児童の「できた!」「分かった!」につながる授業づくりに必要な要件

- ① 「めあてをもち」「対話する」「振り返る」「まとめる」の中のどの場面でICT機器を活用するのか見通しをもち。
 - ② その場面でICT機器を活用する目的を明確にもち、学習効果を想定する。
 - ③ ICT機器活用の結果を振り返り、次回の活用に向けて改善方法を探る。
- ただし、ICT機器のみに頼らず、様々な対話的な学習活動を取り入れる必要がある。